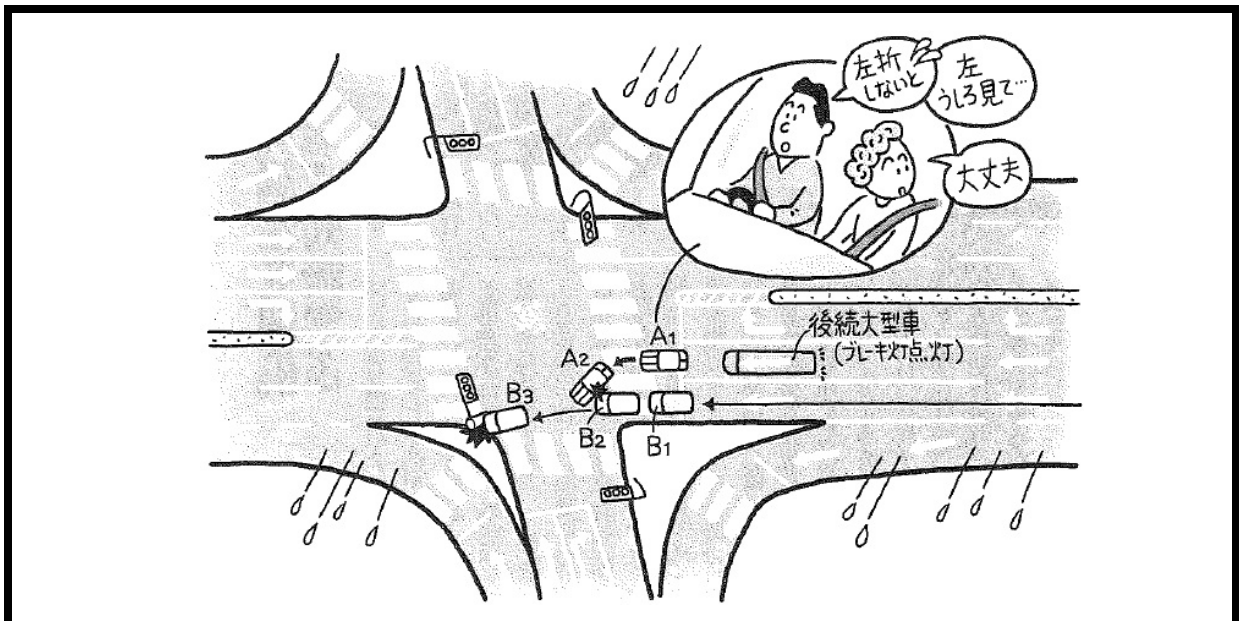


■事故の概況



事故類型：左折時

発生日時：強い雨が降っている日

当事者A：普通乗用車 40歳代 男性

当事者B：普通乗用車 60歳代 女性

■ 事故の概要

Aは、診察の予約時間に遅れないよう少し急いで病院に向かっている途中、大きな交差点の赤信号で停止をしました。病院に行くにはこの交差点を左折しなければならないことに気が付きました。Aは三車線あるうちの第二車線に停止しており、この車線の通行区分は直進のみでしたが、Aは予約の時間に遅れるかもしれないという焦りから、この位置から左折をすることにしました。信号が青になると、Aはルームミラーと左のサイドミラーを確認、さらに助手席の妻に左後方からの走行車両がないことを確認させ、通行区分を無視して左折を開始したそのとき、A車の左側面にB車が衝突しました。

Bは時速約60kmで第一車線を走行していました。前方に交差点が見えたので、時速約50km程度に減速し、対面する信号が青だったので、特別な注意を払うことなく交差点に進入したところ、突然左からA車が出てきて、回避行動をとる間もなく衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aが交通区分違反を犯して左折したことが原因です。事前に目的地をはじめ、右折や左折の交差点を確認しておくことが、事故を避ける方法のひとつです。事故当時は激しい雨が降っていたため、当然見通しが悪くなります。Aは妻に左後方から車両が来ていないことを確認させましたが、実際にはB車がきていました。進行してくる自動車のスピードと左折に必要な時間の関係が適切に判断できていなかったのでしょう。

Bは右隣の車線にいる大型車が、なぜ青信号なのにブレーキ灯が点灯しているのかわかりませんでした。ブレーキを踏まなければならない事態があるのでは？と予測し減速していれば避けられた事例かもしれません。